打楽器メンテナンス

VOL．4　シンバル

コンサートバンドにおけるシンバルの役割は重要で、音楽表現をより豊かなものにするため多種多様なサウンドが求められます。
ここでは三種類のジャンルに分け、整備へのアドバイスと日常の取り扱い、お手入れについてご説明します。

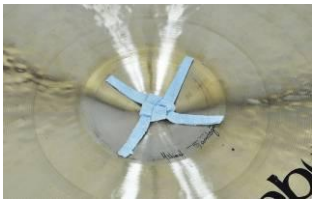
■ ペアシンバル（クラッシュシンバル）の整備について

ペアシンバルは、その用途により直径の小さなもの（16 インチ）から大きなもの（22 インチ）、
軽めのタイプから重いタイプまでさまざまな種類があります。
一種類で全てをカバーすることはとても大変なことですが、基準となるのは 18 インチのあまり軽すぎないタイプになります。軽いタイプは扱いが楽な分、パワーが無くなるのでオールマイティにはなかなかなれません。
厚いタイプと薄いタイプ二種類の 18 インチを基本に、重過ぎない 20 インチ、軽すぎない 16 インチ、などへと整備が進められれば理想のラインナップになります。

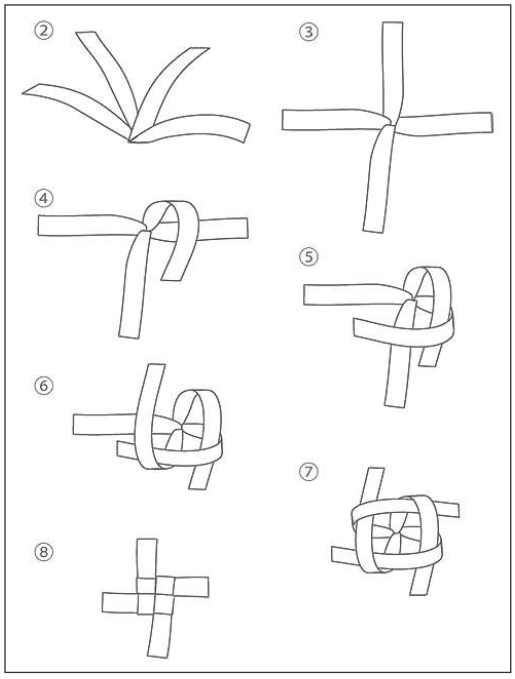
＜手皮の装着方法＞

① 手皮の切込みがシンバルの穴と同じ位置になるくらいまで差し込みます

②シンバルの裏が上になるようにセットします
③シンバルの表側から入れた手皮の切れ目を広げて十字のように整えます
④最初に折り曲げる一片にはゆとりを持たせて反対の方向に折り曲げます
⑤折り曲げた一片に対し重ねる形で次の一片を折り曲げます
⑥同様に次の一片を折り曲げます
⑦最後の一片は最初に折り曲げた一片のゆとりの部分に差し込みます
⑧四片の先端を引っ張りながら全体の形が均等になるように整えます
⑨完成された手皮の長さは最初の時点で決まってしまいます



参考手皮：ラディック L-1366



※イラストは、折り曲げ方が分かりやすいよう長めに描かれています。

＜ペアシンバルのテクニック＞

● 持ち方

手皮の根元をしっかり固定し、シンバルとの角度がふらふらしないようにします。

手先とシンバルとの接点の固定が大切です。重いシンバルを利用して楽な姿勢で演奏できるような持ち方を心がけましょう。

● 姿勢

いつも同じ形をキープできるよう準備をします。
左右のシンバルを並行に少し開いた状態で維持する構え方を身につけましょう。

● 演奏方法

強さが変わっても
打点時の奏法は
変わりません。
打点時の、左右の
シンバルの角度に
気を配りましょう。

シンバルは金属なので基本はしっかりぶつけあうことです。左写真のようにこすり合わせて音を出すのではなく、ぶつかり合っている時間（瞬間）をできるだけ短くすることが大事です。
また、重いシンバルの奏法の基本は、無理な力を加えずに重さを利用して自然な動きを心がけることです。

※手皮にパッドを装着すると手先への負担が軽減され演奏が楽になりますが、持ち方の基本は変わりません。
パッドを装着すると、響きは少し吸収されます。

参考手皮：ラディック L-1365

■ サスペンドシンバルの整備について

サスペンドシンバルも同様に、一種類では表現に限界があります。セッティングの都合で複数枚そろえていく場合も、18 インチを基準に厚みの異なるタイプ、反応のよい 16 インチ、響きが豊かでパワーのある 20 インチ、などへと整備が進められれば表現にとても幅が生まれます。

＜シンバルスタンドとセッティングについて＞

サスペンドシンバルは通常シンバルスタンドに取り付けますが、繊細な響きを大切にしたいときはスタンドに付属のフェルトすら大きく影響します。
出来る限り響きに影響しないための工夫も必要です。
コンサートバンドのサスペンドシンバルは、出来るだけ響きを止めない工夫が必要です。
フェルトに触れる箇所も出来るだけ少なく、ステージではフェルトネジを締めつけずに乗せるのみでも良いです。

また、スタンドのアーム部分は角度をつけずシンバルを水平に取り付け、スタンド足部の開きはシンバルのサイズより大きく広げることで安定感をつけ、倒れないようにセッティングしましょう。

＜サスペンドシンバルとマレットの相性／奏法のヒント＞

シンバルに限らず楽器とマレットのバランスはとても重要ですが、シンバルのサイズとマレットの大きさ、重さ、スティックの太さなどとのバランスはとても大切です。
またシンバルを叩く場所、叩くときの角度もサウンドに大きく影響します。
シンバルのよい響きを最大に生かすためには大きすぎない重過ぎないマレットで、エッジに近い箇所で角度をつけずに演奏するのが基本です。

↑このような角度よりも　　↑　この方がよく響きます。↑

←叩く箇所によって色々な音が表現できます

←このような奏法はあまりよく響きません

←マレットは大きすぎないように。

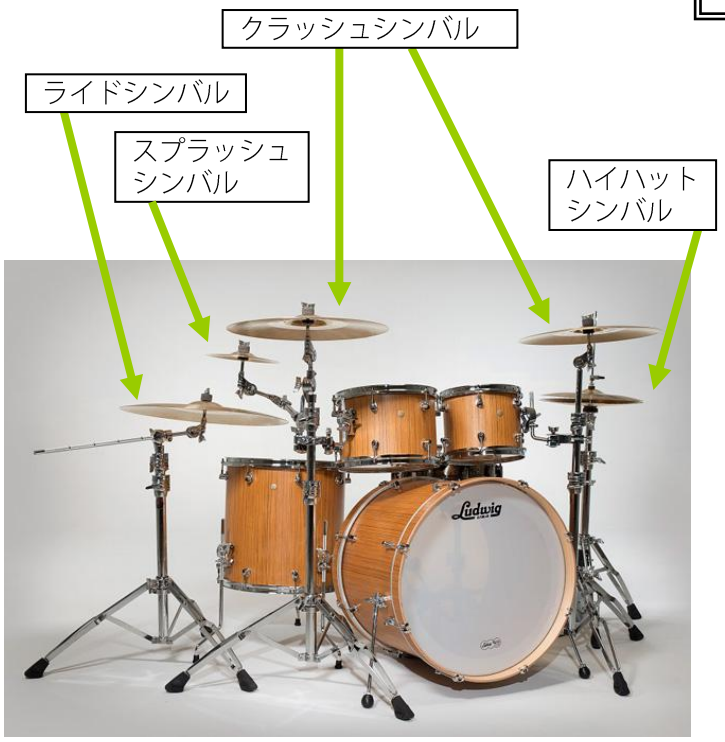
参考シンバル：イスタンブール Super Symphonic（18 インチ）、イスタンブール Thin Crash（18 インチ）

■ ドラムセットのシンバル整備について

ハイハット（14インチ）、クラッシュ（16インチor18インチ）、ライド（18インチ、20インチ）が基本になり、枚数を増やしたり、特殊タイプ（スプラッシュ、シズル、チャイナ、トラッシュ）などを加えることで、より表現力が多種になります。

＜独特の響きを持つ特殊シンバル（エフェクト・シンバル）について＞

● スプラッシュ
６～10 インチサイズの薄めなシンバル。減衰が早く軽いサウンドが得られる。
● シズル
シンバルに穴を開けリベットを打ち込んだもの。余韻の長いサウンドが得られる
● チャイナ
エッジに反り返りの処理をし、倍音を濁らせることでインパクトの強いサウンドが得られる。
● トラッシュ
変形の処理を施し、チャイナよりも爆発的なアタックとすばやい減衰が得られる。



参考ドラムセット：ラディック LSS240X

◇日常のお手入れ
シンバルは金属なのでとても繊細に扱う必要はありませんが、ゆがんだり、欠けたり、ヒビが入ってしまったものはけっして元には戻りません。
金属は酸化しますので、汗や水滴などに注意して、いつも から拭きすることをお勧めします。ケースに入れて保管し、移動のときはハードケースが用意できれば安心です。

◇シンバルの寿命
シンバルは割れてしまったり曲がってしまったりしない限り、形がいつまでも変わらないのですが、強い衝撃で演奏を続けている金属は思ったより早く金属疲労を起こし、購入当初の響き、パワーが知らず知らずのうちに失われていきます。
使用の頻度にもよりますが、購入後二年程度が過ぎると音色がどんどん変わっていきます。ただしこれはこのシンバルがもうだめになってしまったということではありません。二年の経験を積んだシンバルは生まれた時とは違ったサウンドに成長しているのです。しかし残念なことに、生まれた時のあの輝かしい響きと誰にも負けないパワーはもう無くなってしまっています。
新たなラインナップを加えることで、今まで以上にたくさんの表現が出来るセクションに生まれ変われるのです。

◆ワンポイントアドバイス①
一般的にシンバルの厚みが薄くなる（軽くなる）と高音に向かうと思われますがこれはイメージで、本当は逆です。
お問い合わせの多くに「軽くて響きの長い高い音のシンバル・・・」と希望される方がいらっしゃいますが、これはたいへん困難なご依頼です。
明るく豊かな響きの音色を求められるなら、ある程度の重さが必要となります。

◆ワンポイントアドバイス②
不幸にして割れてしまったり、ヒビ（亀裂）歪みなどの状態になってしまったシンバルは元には戻りませんが、まだまだ処分してしまうことはありません。
シズルシンバルやトラッシュシンバルは特殊な響きを生み出すために、わざわざ穴をあけたり、曲げた処理を施しているものです。ひび割れの部分に穴を開けてリベットを打ち込んだり、全体をいい感じで曲げることでまったく違ったシンバルとして見事に生まれ変わります。
不燃物ごみに出す前に是非チャレンジしてみましょう。

■畑中文規　　略歴
武蔵野音楽大学卒業。打楽器全般を小林美隆、塚田靖の両氏に師事。在学中より東京都内オーケストラにエキストラとして出演。卒業と同時に山形交響楽団に入団。D・ミョーの打楽器協奏曲を同交響楽団と共演。1981 年新星日本交響楽団に入団。オーケストラ在籍中、国内各オーケストラにもエキストラとして出演。また、打楽器アンサンブル活動も積極的に取り組む。バイエルン国立歌劇場日本公演にエキストラとして出演。1996 年より同交響楽団首席打楽器奏者。
1998 年野中貿易株式会社入社。